

愛川町教育委員会

令和2年1月20日

愛川町教育委員会 1 月定例会会議録

- 1 会議日程 令和2年1月20日(月)
午後2時00分から午後2時50分まで
- 2 会議場所 愛川町役場201会議室
- 3 議事日程 日程第1 前回会議録の承認について
日程第2 教育長報告事項について
(1) 教育長報告
日程第3 協議事項
(1) 卒業式・入学式「教育委員会のことば」について
日程第4 その他
(1) 中学2年生職場体験の評価・反省について
(2) 令和2年第52回愛川町十四歳立志式について
(3) 第74回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会について
- 4 出席委員 教育長 佐藤 照 明
教育委員(教育長職務代理者) 梅 澤 秋 久
教育委員 榮 利 隆 一
教育委員 平 田 明 美
教育委員 大 貫 洋
- 5 説明を要した者及び議事録作成のため出席した者
教育次長 山 田 正 文
教育総務課長 亀 井 敏 男
指導室長兼教育開発センター所長 藤 本 謹 吾
生涯学習課長 上 村 和 彦
スポーツ・文化振興課長 松 川 清 一
教育総務課主幹 小 島 亘

◎開会

- （佐藤教育長） 本日の出席者は5人であります。定足数に達しておりますので、愛川町教育委員会1月定例会は成立いたしました。

よって、これより開会いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりでありますから、ご承知願います。

これより日程に入ります。

◎日程第1

- （佐藤教育長） 日程第1、前回会議録の承認についてを議題といたします。

12月の定例会分でございますが、会議録につきましては既に配付のとおりであります。

これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する者なし）

- （佐藤教育長） よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

- （佐藤教育長） 特にないようでございますので、質疑を終結して、表決に入ります。

日程第1、前回会議録の承認について、本案を原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

- （佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、日程第1、前回会議録の承認については、原案のとおり承認されました。

なお、定例会終了後に会議録署名原本をお返しいたしますので、委員の方は署名をお願いいたします。

◎日程第2

- （佐藤教育長） 日程第2、教育長報告事項についてを議題といたします。

初めに、教育長報告について、資料1に基づき報告をいたします。

令和元年12月10日から令和2年1月19日までの間に出席いたしました主な会議について、報告をさせていただきます。

12月10日、新旧民生委員児童委員事務引継ぎ会。1期3年ということで改選があり、ここで引継ぎ会がございました。

13日、連絡調整会議。私立幼稚園協会の懇親会がレンブラントホテルでありました。

14日、厚木歯科医師会忘年会。レンブラントホテルでありました。

15日、若者たちの音楽祭5。今年は、5周年ということで、ゲスト枠も含めて全部で14団体の方々が参加をしてくださり、盛大に行われました。

16日、行政経営会議・政策調整会議。そして、元愛川中学校の堀田正弘校長先生ですけれども、叙勲を受けられまして、その報告に来られました。

17日、町議会定例会。最終日4日目です。

18日、子育て中の親と町長との懇談会。去年から、町長と一緒に参加しておりますけれども、20名ぐらいの方々が集まり、いろいろとご意見、ご質問等も含めて、懇談しました。

厚木警察署のスクールサポーターさんが来客されました。

19日、教職員の人事ヒアリング。来年度の人事について、各校長から説明を受けました。

20日、授業参観。これはプログラミング教育でマインドストームを使った授業を職員が行い、その参観に行ってきました。今年採用の土田教諭が行っておりまして、この中身については、神奈川新聞に掲載されました。今後、先生方がマインドストームを使って授業をしていくということの初めての授業ということで、児童が楽しそうに取り組んでいました。

清川村教育委員会訪問。人事の件で、山田教育長と話をしてきました。

21日、あわせんざい茶会。毎年、愛川町中津にお住いの茶道協会の方が行っているもので、山田次長と行ってまいりました。

23日、臨任候補者面接。それから、職員親睦会であります「あやめ会」の親睦交流会がありました。

24日、関係機関訪問。厚木児童相談所と少年相談保護センターに行ってきました。

それから、3市町村の行政懇談会。厚木市、清川、愛川町の首長含めて、懇談会がございました。

26日、県の教育委員会教育長訪問。親子給食の件と来年度の親子給食に係る栄養士の加配について、お話をさせていただきました。

それから、県央教育事務所長訪問。人事の関係です。

全国大会出場奨励金交付式、教育委員会表彰。今回は、全国高等学校ライフル射撃競技で高校2年生の男子、全国高等学校定時制・通信制大会で男子バトミントンの部に参加した高

校3年生の男子、全日本シニアバドミントン選手権大会に3名の方が参加をされましたので、奨励金を交付いたしました。

なお、ライフル射撃に出場された久保田さんについては、12月9日に教育委員会表彰を受賞されましたが、当日、欠席であったため、交付させていただきました。

27日、年度末の施設巡回。

仕事納め式、教育委員会仕事納め式。

1月6日、仕事始め式。

社会福祉協議会の会長さん、副会長さんが、新年のご挨拶に来室されました。

9日、議会の臨時会。町商工団体の新春講演会・賀詞交換会が文化会館で行われました。

第4回青少年指導員連絡協議会。1期2年ということで、今年度が最終の年ということで、お礼も含めて参加をいたしました。

11日、愛川町消防出初式。立科町選手団歓迎式。12日の愛川町一周駅伝競走大会の歓迎式を行いました。

12日、一周駅伝大会、成人式。

14日、行政改革推進本部会議。

16日～17日、県教育長会宿泊研究会。真鶴町に行ってきました。

午後、神奈川県公民館大会。本町で開催され、約200名の方々が参加をされました。愛川ハーモニカアンサンブル、愛川高校の和太鼓部の皆さんに演奏していただき、大変好評でありました。

18日、福祉団体合同新年賀詞交歓会。

19日、青少年健全育成大会。約80名の育成会の皆さんが参加をして盛大に行われました。

宮城教育大学の野澤教授の講演を聞きました。これからの時代に公民館に期待されるものというテーマで講演をしていただいたんですが、本町が取り組んでいる地域学校協働活動推進事業との関係も深く、非常に参考になりました。

以上です。

それでは、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(発言する者なし)

○(佐藤教育長) よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○(佐藤教育長) それでは、特に質疑ありませんので、日程第2、教育長の報告事項につい

ては、ご了承願います。

◎日程第3

- （佐藤教育長） 日程第3、協議事項についてを議題といたします。

卒業式・入学式「教育委員会のことば」についての説明をお願いします。

指導室長。

- （藤本指導室長兼教育開発センター所長） 資料2をご覧ください。

令和元年度の小学校・中学校の卒業式、令和2年度の小・中学校の入学式に際しての「教育委員会のことば」の提案でございます。

資料は、表が小学校の卒業式、裏面が中学校、そして2枚目の表が小学校の入学式、裏面が中学校入学式となっております。

ことばにつきましては、昨年、小学校の入学式のところでご指摘をいただいた遊びや授業という、遊びから楽しいイメージで入ろうということでの文言の変更を行いました。今年につきましては、特に変更はしておりません。

1点、1枚目の裏面になりますけれども、中学校の卒業式の冒頭のところで、〇〇中学校の後ろに第何回と学校ごとに入っておりますが、今回、一度抜いた形でご提案をさせていただいております。一つには、小学校の卒業式は何年度卒業と入っていないために、小・中でそろえたところであります。

ただ、それぞれの卒業の授与式のしおりを見ますと、中学校はどこも第何回というのを大切にされていて、第何回卒業式と書かれております。そこについて、いかがでしょうかということでご意見をいただき、そこについては考えたいと思っております。

提案は、以上です。よろしくをお願いします。

- （佐藤教育長） ご質疑、ご意見等がありましたらお願いいたします。

大貫委員。

- （大貫委員） 1枚目、小学校の卒業のですけども、5行目、「皆さんがこの日を迎えることができたのも」についてです。

（「『も』なのか、『は』なのか」との声あり）

- （大貫委員） 迎えることができたの「も」だと、もう一つ何かあるんだよな。「は」なら単純にそれだけということ。先ほどの、第何回の卒業生の皆さんというのは、学校が独自にやっている回数で、学校によって違うよね。

- （藤本指導室長兼教育開発センター所長） 3校とも別々です。
- （大貫委員） 教育委員会から出すのなら、回数をとったほうが、平べったくて、私はいいと思いました。提案どおりでいいと思います。

それから、一番最後から2枚目の裏の中学校の入学式の言葉ですが、3行目に2週間前にと書いてありますが、3月の小学校の卒業式がちょっと前まで21日あるいは22日あたりだったならば、2週間前でも、数的にはそんなに差はないと思います。今年は卒業式が19日、入学式が4月6日、この数日ではどうってことないんじゃないかと思います。ならばとって、「3月に」などの抽象的な言葉に変えた方が、具体的な日数でなくてもいいのかなと読んでいて思いました。

その2点です。

- （佐藤教育長） 他にいかがですか。

（発言する者なし）

- （佐藤教育長） 特にないようでしたら、大貫委員さんが言われた最初の資料2の「この日を迎えることができたのも」これについては、藤本室長、「も」は何か他にも。
- （藤本指導室長兼教育開発センター所長） 「は」なのかというのは、私どもも……。
- （大貫委員） これは口で言う挨拶のときに「も」でもするっと通っちゃう。

（「紙だから」との声あり）

- （藤本指導室長兼教育開発センター所長） 言葉としてですと。
- （大貫委員） そうなんです。一般的には、口で言う挨拶のときには大体「も」です。文書で読んでしまうと、と思ったんですが、考えてください。
- （佐藤教育長） 「も」でも問題ないでしょうね。
- （大貫委員） ないね。
- （藤本指導室長兼教育開発センター所長） 何となく「は」というのは、確かに言葉で言うのと正しいですが、お祝いとして考えときに、「できたのは」というと。
- （大貫委員） 原案を尊重しましょう。
- （佐藤教育長） 大貫委員から、原案を尊重させるということで、「も」でよろしいでしょうか。

次のページの第何回というがありますが、3中学校とも、全然違うということで、新生中学校になったときに、多分、在校生が2年生なのか3年生などによっても、多少変わってくるというようなことのようにです。なくてもよろしいかと思いますので、とるということでい

かがですか。

(「はい」との声あり)

- (佐藤教育長) はい、では、原案のとおり。
それから、最後のところの「2週間前」、確かにプラス4ですよね。
- (藤本指導室長兼教育開発センター所長) 一番上にずれてきたところで、18日ほどございます。ついこの間等のニュアンスで、「3月にそれぞれの学校を卒業された皆さんが」。
- (佐藤教育長) 一つの案としては、「3月」。
他に何かありますか。
ここのところは、藤本室長、意味合いはわかったと思いますので、検討してください。
- (大貫委員) あるいは思い切ってとつても、文書として続きますよ。いきなり「それぞれ」っていうとおかしいように思いますけれども、別に問題ない。
- (藤本指導室長兼教育開発センター所長) では、「3月に」と入れるか。
- (大貫委員) 検討してください。
- (藤本指導室長兼教育開発センター所長) わかりました。
- (梅澤委員) 確認を一つ。全部の小・中学校、この卒業のしおりは横書きで統一されていますか。
- (藤本指導室長兼教育開発センター所長) 卒業のしおり自体は全部横書きです。
- (梅澤委員) では、結構です。
- (佐藤教育長) よろしいでしょうか。
それでは、幾つかご意見いただきましたが、そこについては事務局で再度検討していただきたいと思います。
それでは、他に質疑ありませんので、卒業式・入学式「教育委員会のことば」についてはご了承願います。
それでは、日程第3、協議事項については、以上とさせていただきます。

◎日程第4

- (佐藤教育長) 次に、日程第4、その他を議題といたします。
初めに、中学2年生職場体験の評価・反省についての説明をお願いします。
指導室長。
- (藤本指導室長兼教育開発センター所長) それでは、資料3をご覧ください。

令和元年度の職場体験の職場体験検討会議の評価・反省についてでございます。

概要として、1ページ目と2ページ目に上げさせていただいておりますので読み上げさせていただきます。

修正がありまして、保護者アンケートよりの2個目のぼちの4行目で「59.6%とに」と、「と」がまざっております。「と」は必要ございませんので、削除をお願いいたします。

それでは、今年度の結果という中から、まず、生徒にとってアンケートにつきましてですと、昨年度は課題でありました「自分の将来について考えること」、それから、「職場体験について保護者の話」ということについて、恐らく先生方の意識した指導と成果としてですが、「大いに思う」と答えた生徒の割合がそれぞれ20ポイント以上も上昇しまして、全ての項目において肯定的な回答が90%以上となりました。実際に体験をしている生徒のアンケートが向上したということは大きな成果かなと考えております。

保護者アンケートですが、おおむね良好ではありました。例えば、「生徒と内容や様子に話をした」、「機会があればまた参加をさせたい」、有意義な活動であったと答えた保護者は90%を超えております。

一方の課題としましては、将来の進路や職業、この職場体験に端を発して、そこまでの話をしたかということについては59.6%にとどまっていることから、もう少し会話が広がり深まるような情報提供が学校側からも必要であると考えております。

事業所のアンケートからは、おおむね肯定的な評価ではありましたが、挨拶を含めたコミュニケーションや事業所での活動への取り組みに対する意欲的な態度については、消極的な生徒が昨年度より多かったというお声をいただいております。改善が必要であるといわれていることから、職場体験の意義等を生徒が十分に理解できるように指導していく必要があると感じております。

一方、生徒のアンケートの中には有意義だったということは出ております。そのあたりも考えながら、事業所にもご理解いただく面も働きかけていかなければならないとも感じております。

教員のアンケートでございます。

誤植ではございませんが、昨年度課題だったところに、「保護者との連携について」という項目があったんですが、40.2%上昇いたしました。40.2に上昇したわけではなく、昨年度、この部分の数値は21.7でした。今年は、実施に当たっての保護者との連携の肯定的回答は61.9ということで、先生方が意識して指導に当たったということがわかります。

保護者との連携という面は、丁寧な説明、学校だより、学年だより等での扱いですとか、そういうあたりがより組織的にできたと捉えております。

一方、今年度の課題としては、体験先の確保ということで、なかなか今まで課題としては出てこなかったのですが、現状、生徒数が減少しているため、受け入れ事業所数としては足りていますが、生徒の実態を捉えて何を学ばせたいか等を考えるとさらなる事業所の開拓、受け入れ態勢の質を問う時期に入ってきていると考えております。

各校で受け入れ先の情報を共有しますが、学校の担当が変わると、事業所ごとの特徴など引き継がれないことも正直あります。そのあたりについて、確実な引き継ぎをお願いしていきたいと考えております。

裏面以降は、アンケートの結果を載せておりますので、ご覧いただければと思います。

なお、職場体験に行った感想等をまとめ、写真とあわせて、事業所へお届けするというものを作成しております。間もなく完成しますので、完成しましたら、委員さんのお手元にも1部ずつお届けをさせていただきたいと考えております。

説明は以上です。

- （佐藤教育長） これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等ありましたらお願いいたします。

アンケート結果については、昨年度よりはいい結果が出ているのかなと思います。これは先生方の子どもへのかかわりによってこう数値が変わってくるのでしょうか。

- （藤本指導室長兼教育開発センター所長） ということを非常に感じております。

学校として統一感を持って、事業所との連絡、保護者への情報提供を行うというのは、申し忘れてましたが、この評価・反省は委員会で見ただけではなく、各校からの代表1名と委員会の担当者でまとめたものです。各校からの考えとして、今のような話が出たということになります。

- （佐藤教育長） 他にいかがでしょうか。

大貫委員。

- （大貫委員） 継続して実施していくということで、どの年度でやっても、同じようなアンケート結果は出ますよね。今年の2年生は、おとなしいのかなと思います。事業所でもう少ししっかり挨拶しようとか、そういうのがより見えてきてしまうのかな。学年のもつ集団の特性みたいなものも、どうしてもアンケート結果には出てきちゃうなと思って見えています。

一つ言えるのは、いいことなので、ずっとこれからも続けていくという方向性は持ってい

なきやいけないですけども、近隣の市町村あるいは公立の中学校の状況を見て、縮小、あるいは場合によっては廃止、授業日数の関係でやらないとかというような何年か先を見通した調査をやっておいた方がいいと思います。

苦しくなってから、来年、再来年でやめてしまおうというより、そこまで行くのに4、5年はかかったというような準備が必要です。縮小、場合によってはやらなくなるというのは、いつか来ると思います。かなり早い時期に、もう今の授業日数や状況を考えると、そこを考えないといけないので、今から準備をしておいた方がいいのかなと思いました。

○（佐藤教育長） 他にございますか。

梅澤委員。

○（梅澤委員） 1枚目の裏面、（2）番の職場体験検討会議の評価・反省の1つ目の丸について。

生徒体験先希望票の例としての、鉤括弧の二つ目です。「自分の短所を克服するための職種は何ですか」について疑問を覚えます。

なぜならば、職場、あるいは職業を考えるときに、短所を克服するために仕事を選ぶ人はいないと思うからです。長所は何なのか、自分の長所を生かす職場は何なのか、それを体験し、それでもなお足りないところに気がつき、その短所を克服してくるのが、多分、職場体験の中心的意義かなと私は思います。短所を克服するために職場体験をすると、接客業の場所に内気な子が行って、今度来た子は挨拶ができないといった、コミュニケーションがとれないという、そういうネガティブな反省につながりかねないと思います。ぜひ、長所を伸ばす方でこういうアンケートをとってもらえるといいかなと思います。

以上です。

○（佐藤教育長） 今のご意見についてはいかがですか。

○（藤本指導室長兼教育開発センター所長） ありがとうございます。

各校の職場体験の担当者の声をそのまま載せておりますが、その視点を十分生かしながら、学校に対して間違ってもこのような形で反省しないようにしていきます。ありがとうございます。

○（佐藤教育長） 他にございますか。

新しい学習指導要領の中にキャリア教育を推進しながら教育課程の編成というところもあり、かなり重きを置かれている部分です。やはり働くということをしつかりと意識させながら、小・中学校の連携を進めていくべきだろうなと思ったりしています。

今後、そういう9年間を見越した記録簿みたいなものも案として出ていますので、さらにキャリア教育については、愛川町としても推進していけたらいいなと思っています。

よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○(佐藤教育長) よろしいですか。

では、こちらで2年生職場体験の評価・反省についてはご了承願います。

次に、令和2年第52回愛川町十四歳立志式についての説明をお願いいたします。

生涯学習課長。

○(上村生涯学習課長) それでは、(2)令和2年第52回愛川町十四歳立志式についてご説明申し上げます。

まずは、先日の成人式につきましては、おかげさまで無事に実施することができました。ありがとうございました。

それでは、立志式についてご説明申し上げます。

資料4、立志式開催要項をご覧ください。

第52回目となります本年度の立志式は、文化会館ホールで令和2年2月7日の金曜日に開催し、午後1時の開式を予定しております。

6の内容でございますが、第1部の式典につきましては午後1時から、第2部の講演につきましては午後2時10分頃からを予定しております。第2部につきましては、昨年度に引き続き、北極冒険家荻田泰永氏を講師にお招きし、講演を行います。

次のページ、しおりでございますが、昨年度と同じレイアウトとなっております。

見開き左側には、町民憲章、右側には愛川町教育大綱を掲載しております。

当日、受付が終わりましたら文化会館応接室を控室としておりますので、ご利用いただきたいと存じます。

その後、職員がご案内をいたします。

本会議終了後には、ご出席、ご欠席の確認をさせていただきたいと思っております。

説明は以上でございます。

○(佐藤教育長) それでは、ご質疑、ご意見等ありましたらお願いします。

(発言する者なし)

○(佐藤教育長) よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

- （佐藤教育長） それでは、特に質疑がありませんので、令和2年第52回愛川町立志式についてはご了承願います。

次に、第74回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会についての説明をお願いします。

スポーツ・文化振興課長。

- （松川スポーツ・文化振興課長） それでは、資料5、第74回目を迎えます「かながわ駅伝」競走大会のご説明とご案内をさせていただきます。

まず、11日に開催されました第65回の愛川町一周駅伝競走大会、あわせて開催いたしましたT o w a r d s 2020、スポーツ推進事業、こちらにご参加いただき誠にありがとうございました。心配された天気も、閉会式に若干の小雨がちらつきながらも、無事に終わられましたことを重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。

資料5によって説明いたしますと、期日が令和2年2月9日の日曜日、9時に秦野市カルチャーパークをスタートいたしまして、県立相模湖公園でゴールとなっております。51.5キロの距離を7人の選手が走ります。

愛川町の通過時間が、資料の通過予定時刻をご覧くださいますと、10時半頃から10時50分頃までと想定されますので、教育委員の皆様におかれましても、沿道での熱い声援を送っていただけますように、お願いを申し上げる次第でございます。

簡単ではございますけれども、「かながわ駅伝」競走大会の説明とご案内につきましては、以上でございます。

- （佐藤教育長） それでは、ご質疑、ご意見等ありましたらお願いいたします。

梅澤委員。

- （梅澤委員） 冒頭にご挨拶のありました町一周駅伝について、良かったことの1つ目、女子の選手が少し増えていたこと、とても喜ばしいことだなと思いました。良かったことの2つ目、活動的な内容が後半にあり、待たされている雰囲気が減ったこと。これが非常に上手にデザインされていたなと感じています。

1つ目の女子について、2部で結構ですので、表彰対象に上げていただきたい。これは重ねてのお願いになります。女子だけのチームが1つ参加をしていました。やはり、そこだけで参加するのは、なかなかモチベーション上がらないという話も直接聞きましたので、広げるという意味でも、ぜひ女子の部をお願いしたい。今年は、閉会式での表彰式の受け渡し等の時間もかなり短縮されたと思うので、そのあたり上手にお考えいただければいいかなと思っています。

もう1つ、「かながわ駅伝」競走大会について、選手等の選考がどの程度まで進んでいるのか、情報があれば教えてください。

○（佐藤教育長） スポーツ・文化振興課長。

○（松川スポーツ・文化振興課長） 「かながわ駅伝」競走大会の選手の選出でございますけれども、現在、愛甲郡のロードレース、そして愛川町一周駅伝競走大会の結果を経て、ほぼ確定している状況ではございます。区間については、未定でございます。

○（梅澤委員） わかりました。

○（佐藤教育長） よろしいですか。

他にございますか。

榮利委員。

○（榮利委員） 閉会式の最後に、国旗を納めなかった点、そういうことが今後はないようにお願いします。

○（佐藤教育長） スポーツ・文化振興課長。

○（松川スポーツ・文化振興課長） お話いただきましたとおり、国旗の降納につきましては、時間と雨が降ってまいりました関係で、相当な時間の制約を求められた関係で、とっさに割愛をさせていただきました。大変申し訳ございませんでした。

以上でございます。

○（佐藤教育長） 皆さんから言われましたけれども、終わる時間が成人式の20分前だったので。

○（松川スポーツ・文化振興課長） 補足で再度説明させていただきますと、あのような寒い環境の中、どの部分を割愛すれば参加者にとって、少しでも楽なお気持ちで閉会式を終えることができるかということ判断の結果、苦渋の決断ということでご理解いただきますように、重ねてお願い申し上げます。

○（佐藤教育長） そうということで、よろしく願いいたします。

○（大貫委員） 例えば、閉式のことと一緒に降ろさせてもらいますとか、臨機応変に放送で言ってしまうえば、変に思われなかったんだらうね。だから、言ってしまうえばいいんだよ。

○（佐藤教育長） 用紙には書いてあったんだよね。放送で流せばよかったですね。次回はそうしましょう。

○（松川スポーツ・文化振興課長） いただきました意見を吸収しながら、次回はよりよい運営をしていきたいと思っております。

ありがとうございました。

- （梅澤委員） もう1つ、時間短縮の件で、最後の表彰で「以下同文」を一切使わなかった箇所があります。同じようなことを7回読まれたところは割愛できるなど思いながら見ていました。雨も降り始めていましたので。

（「なんの表彰ですか」との声あり）

- （梅澤委員） 10回参加者、25回参加者。
- （佐藤教育長） あれ文面全く同じですか。
- （松川スポーツ・文化振興課長） 全く同じです。

10回、25回の表彰と、区間記録、その部分は、以下同文と我々も想定していたところ、表彰者の方が読まれてしまいました。

- （佐藤教育長） 来年度は確認していただいて。
- （松川スポーツ・文化振興課長） はい。
- （佐藤教育長） 今回の表彰の中では、受け渡しを同時にやったということで、少し短縮ができたかなと思います。来年度、スポーツ少年団は、この2年間で一緒にやって、あの部分も長くなっていたので、もう少し短縮できるかなと思います。

よろしいでしょうか。

それでは、第74回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会については、ご了承願います。

◎閉会

- （佐藤教育長） 本日の案件につきましては全て終了いたしましたけれども、各委員からのご意見、ご感想等ありましたお願いいたします。

（発言する者なし）

- （佐藤教育長） よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

- （佐藤教育長） 特にご意見等がありませんので、事務局、何かございますか。

（「ありません」との声あり）

- （佐藤教育長） それでは、1月の定例会の議事日程全て終了いたしましたので、閉会といたしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

- （佐藤教育長） ご異議がないものと認めます。

よって、1月の定例会は閉会といたします。

大変、お疲れ様でございました。

なお、次回の教育委員会定例会ですけれども、令和2年2月25日火曜日、午前9時から、この201会議室で開催いたしますので、ご了承お願いいたします。

愛川町教育委員会会議規則第17条第2項の規定により、ここに署名をいたします。

令和2年2月25日

教育委員会教育長

佐藤 昭明

教育委員会

教育長職務代理者

梅澤 秋久

教育委員

榮利 隆一

教育委員

平田 明真

教育委員

大貫 洋

調整職員

小島 亘